

製造・販売、派遣料上げ

人材派遣会社が顧客企業から受け取る派遣料金の上昇が広がってきた。専門スキルへのニーズから値上がりが続くIT（情報技術）技術職などに加え、今秋は料金が上がりにくい製造や販売職でも2〜3%上昇した。人手不足の中でも派遣会社が人材を確保する対価として値上げが浸透した。派遣会社は外国人の派遣も本格化し始めた。派遣会社と顧客企業は

首都圏で2〜3% 外国人活用進む

スタッフの契約更新ごと派遣料金を交渉する。秋は春に次いで更新が多くなり、大手の交渉結果がこのほどまとまった。料金の約7割がスタッフに支払われる。工場のラインで働く製造職は中心価格帯が首都圏で1時間あたり1600〜2200円と各社平均で前年比3%前後上がった。「4、5年ぶりの値上げ。これまででは上がっても数円単位だった」

（スタッフサービス）。人手確保がより難しい東海地方や九州では「上げ幅が5%に達した」（製造職派遣大手のアウトソーシング）。販売職は首都圏で1800〜2100円と2%超上がった派遣会社が多い。最も人数の多い事務職の上げ幅（1%前後）より大きかった。派遣スタッフの値上げは従来、IT技術職や事務が新たなITスキルを



製造ラインで働くスタッフの派遣料金が上昇している

習得するなど業務範囲の拡大に伴うものを中心だ。製造や販売は繁忙

期のみの勤務も多く、スキル上昇が見えづらいため値上げが少なかった。

だが肉体的な負担などから企業がアルバイトなどで直接採用するのが特に難しい。多くのスタッフが差配できる派遣会社への需要が強まっており、「新規で数百人を派遣する代わりに相場より2割高くしてもらおうといった契約が増えてる」（製造職派遣大手のITグループ）。

各社は人員確保を狙い、留学生を中心に外国人の派遣に本腰を入れ始めた。昨年からは外国人派遣を本格化した製造職派遣大手エフエージェイ（東京・千代田）では、7〜9月の新規就業者1千人のうちベトナム、ネパールら外国人が51%。全就業者の3割を超え、リクルートスタッフの需要が強く、フィリングの販売スタッフは日本人1千人に対し130人が外国人留学生で、前年比3倍だ。

派遣スタッフはアルバイトなどに比べ企業の負担する人件費が割高な分、即戦力が求められる。言語の壁などがある外国人は珍しかったが「日本人では確保しにくい若年層を派遣できることもあり、顧客の理解が急速に得られるようになった」

（エフエージェイ）。担い手は外国人以外にも広がる。エフエージェイでは今年に入り、応募者の3分の1が6代になった。販売員派遣大手のIDA（東京・渋谷）では学生の派遣スタッフは1年で3倍になった。全職種で値上げ幅が最大だったのは、値上げのけん引役であるIT技術職。首都圏では1時間2700〜5000円で、パナでは値上げ幅が1割を超えた。人工知能（AI）開発などの需要が強い。「求人倍率は約8倍。任せる仕事はまだないの

に派遣契約してスタッフを確保する企業も出てきた」（パーソルホールディングス）。事務でも、正社員の残業削減の代替要員として表計算ソフトなどの技術の高い人の需要が強い。ただ料金上昇が続くなか「高スキル人材の値上げは鈍化し始めた」（同社）。一方で人手不足感から、新規就業者を募集する際に料金を上乗せするなど、経験の浅いスタッフの値上げは増えている。スキルによる料金差の縮小に懸念も出始めた。